

「八幡市子ども会議」だより

発行：八幡市教育委員会 令和3年2月

「八幡市子ども会議」とは

「八幡市子ども会議」は、「八幡市の未来を担う子どもたちが、あらゆる人に対する思いやりや、いたわりの心、生きることの尊さについて考え、人々が生涯を通じて等しく、充実した生活ができる社会をめざして、自分の意見を表明し、子どもの立場から議論・提言をすること」を目的とし、平成16年度から継続し17年目を迎えた取組です。

本年度は、市内小・中学校と京都府立京都八幡高等学校の児童・生徒30名の委員が、昨年8月から本年2月まで、八幡市をよりよくすることを目指し、自分たちで決めたテーマについて、話し合いや施設の見学、さらには調査研究活動を行い、市長への提言にまとめてきました。また、活動を進めるに当たり、立命館大学政策科学部 稲葉光行教授に御指導いただくとともに、稲葉ゼミの大学生にも活動のサポートをしていただきました。

「令和2年度 八幡市子ども会議 ー市長への提言ー」

令和3年1月30日に八幡市社会福祉会館3階にて、「八幡市子ども会議 ー市長への提言ー」を行いました。各班の主な提言内容を紹介いたします。

小学生A班

時計で八幡を町おこし

登下校の際に集合場所等に時計がなく、時間が分からず不便であるという現状から、時計を使って町おこしにつなげられないかと考えました。

八幡に関係のある特色豊かな「やわたくさん時計」を作ってほしいと提言しました。



中学生班

八漫画

八幡市の魅力・歴史をもっと多くの人に知ってもらうため、八幡市の歴史を漫画にした「八漫画」を考案しました。この漫画のキャラクターをアレンジして、八幡市に関わる漫画のコンテストを開催するようなプロジェクトについて提言しました。



小学生B班

「やわたのどん」による八幡市の町おこし

京都は観光客が多いものの八幡市に来られる方が少ないことや八幡市が健康に力を入れていることを踏まえて考えました。八幡市の地図を調べ、形が恐竜に似ているのではないかと気づきました。観光客にグッズをプレゼントするようなイベントを行ってほしいと提言しました。



高校生班

仮想空間を使った八幡の情報の発信

八幡が京都市に比べ知名度が低いことやおもしろい文化財、文化施設があるのにあまり知られていないという課題を解消するための方法を考えました。マインクラフトで松花堂庭園を表現したものを市長に見てもらい様々な施設などをマインクラフトで作る活動について提言しました。



小学生C班

おうちdeのぞきみ八幡宮

イベントがなくても八幡を訪れたいくなるような、コロナで八幡に来ることができなくても楽しんでもらえるような今までにないPR動画を作ってみようという思いで考えました。VRを使って石清水八幡宮だけでなく、八幡の他の観光地のPR動画を作成してほしいと提言しました。



講評 立命館大学政策科学部教授 稲葉光行先生

コロナの中でなかなか集まれなくてzoomで会話したりとか大変なところもありましたけれども、よくここまで立派な提言をしていただいております。子どもたちの今年の活動を見て、2つ関心したことがありました。

1つは今日発表で聞いていただいたマインクラフトとか360度動画とか。コロナの時だから今まで出てこなかった新しい話題が出たのかなという気がします。もう1つはコロナだからやっぱり外に出れないとか、子ども会議委員の皆さんは不平不満を言うてくるんじゃないかと私は思ってたんです。自然に今できることを今だからこそできることをどんどん考えていることにすごく感心しました。

「八幡市子ども会議」を終えて

今年度最後となる「子ども会議」を2月に開催し、活動の振り返りを行い、無事終了しました。

子ども会議委員からは、「コロナだからといってマイナスで考えずに、逆にコロナ禍だからできることは何だろうというポジティブな発想を持っていたから、今年ならではの提言ができた」などの感想が聞かれ、活動が充実していたことが分かりました。

来年度も「八幡市子ども会議」を開催する計画をしており、新たな視点からの提言に取り組みます。

